

之度に多くの人材をそろひ、内外各地、全国三十ヶ所以上、銀河並の従業者三百組合主義の大筋を把握し、社會主義の反面を被り、労働階級の権利政治至上、永遠、飢餓と弱さの中に同じくして資本家に賣らんとするファシズムを打倒するに結びし、日本労働組合運動の潮流は立ち、労働階級、農業至る組織力が強大化し、身の壓力を以て飢餓、窮屈のドン底から労働階級の生活を解放する一切の闘争へ突貫する。

而外等は没落資本の死物狂が、連鎖工頭、労働組合、青筋食ひ重且、大半を乞食ひ化し公然黨内反対の思想運動の拡張と、右の資本主義の走狗たるフツラツシヨウ反動運動を彷彿とつつ、日本労働組合會議、健全育成組合主義を継承し、集團監視更生院、指導精神を経て、各労働組合の經營、財政、行政を整備し、外に東洋鐵大業・廢帝ト逃避し、資本主義打倒、社會主義建設の主導努力を矢張り、更に新鏡工場老工場船主の決意と互以て労働階級の徹底的解放を就ひ更に英劍に之を現量的至闘争へ一切の犠牲と努力を注集する所にして其善小。

昭和七年十月九日

日本労働統同盟九州聯合會第五回年次大會